

令和2年度

千葉県公立高等学校入学者選抜
学力検査の結果

千葉県教育委員会

目 次

I	概 要	2
1	はじめに	
2	実施日、教科	
3	調査の対象	
4	学力検査問題の特徴	
5	結果の概要	
II	【前期選抜】教科別の結果	
1	国 語	4
2	社 会	6
3	数 学	8
4	理 科	10
5	英 語	12
III	【前期選抜】受検者の得点分布	14
IV	【後期選抜】教科別の結果	
1	国 語	16
2	社 会	18
3	数 学	20
4	理 科	22
5	英 語	24
V	【後期選抜】受検者の得点分布	26

I 概 要

1 はじめに

令和2年度千葉県公立高等学校入学者選抜では、前期選抜及び後期選抜において学力検査を実施した。その結果をもとに作成した「学力検査の結果」を、本県中学校及び高等学校において教科指導力向上のための資料の一つとして活用願いたい。

2 実施日、教科

前期選抜の学力検査は、令和2年2月12日（水）に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科、各50分、各100点満点で実施した。

後期選抜の学力検査は、令和2年3月2日（月）に、国語・社会・数学・理科・英語の5教科、各40分、各100点満点で実施した。

3 調査の対象

本結果は、令和2年度千葉県公立高等学校入学者選抜の前期選抜及び後期選抜の学力検査で、全日制の課程（特別入学者選抜、地域連携アクティブスクール4校を除く）を受検した者（前期選抜では35,599名、後期選抜では14,599名）の結果についてまとめたものである。

なお、正答率・無答率については、各教科とも全日制の課程の全受検者のうちから抽出した答案（全体の約10%）によって算出した。

4 学力検査問題の特徴

学力検査問題の作成に当たっては、各教科とも中学校学習指導要領に基づき、総合的な力をみることができるよう配慮した。

令和2年度の学力検査問題の特徴は、次の2点である。

- 基礎的・基本的な事項の正確な理解度をみることができるよう、複数の解答について全て正しい場合にのみ正解とする問題や、理由を書かせる問題を設定した。
- 学習した基礎的知識を応用して答えを導く問題や思考力、判断力、表現力を総合的にみることができるような問題を設定した。

上記2点を柱に、「自ら学び、思考し、表現する力」をみる問題を充実させた。

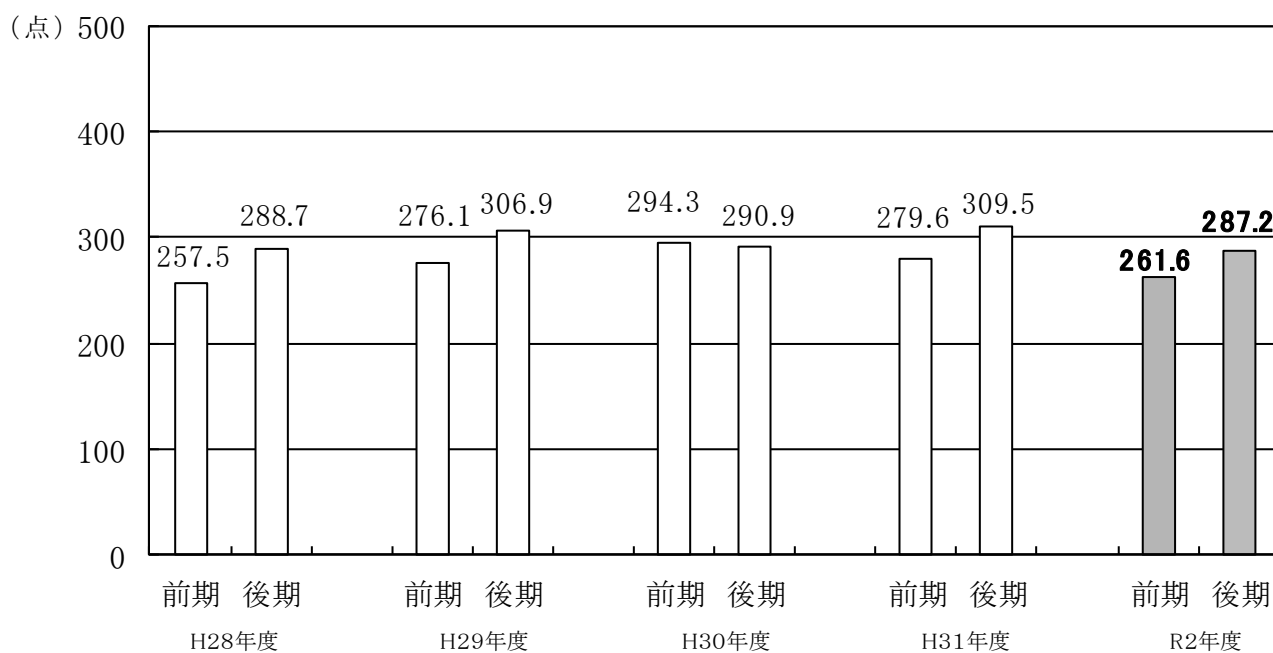
5 結果の概要

【表】各教科及び5教科の平均点

()内は標準偏差

		国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	5 教 科
令和 2 年度	前期	46.0 (17.3)	60.7 (22.6)	51.4 (19.8)	48.8 (17.8)	54.6 (22.9)	261.6 (90.6)
	後期	54.7 (16.5)	62.1 (20.8)	59.0 (18.9)	59.7 (21.5)	51.5 (24.2)	287.2 (92.6)
平成 31 年度	前期	54.2 (15.4)	56.6 (20.9)	54.5 (18.7)	60.6 (20.8)	53.6 (24.5)	279.6 (93.2)
	後期	59.2 (15.1)	65.8 (22.0)	61.0 (19.1)	61.6 (19.3)	61.9 (23.7)	309.5 (88.8)

【図】5教科の平均点の経年変化



前期・後期選抜の各教科及び5教科の平均点は、【表】に示したとおりである。

また、5教科の平均点の経年変化を【図】に示した。令和2年度の前期選抜及び後期選抜の5教科の平均点を見ると、前期選抜は前年度より18.0点低くなり、後期選抜は前年度よりも22.3点低くなった。

なお、受検者の得点分布については、前期選抜は14、15ページ、後期選抜は26、27ページに示した。

Ⅱ 【前期選抜】教科別の結果

1 国 語（前 期）

（1）出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、3領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにした。
- エ 与えられた材料について、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにした。

（2）正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,629

領 域（事 項） ・ 内 容		問 題・配 点	正 答 率（％）
話 す 事 項	放送による聞き取り	一 10点	59.4
書 く 事 項	作文	八 12点	23.9※
読 む 事 項	説明的な文章	五 20点	51.3
	文学的な文章	六 20点	45.2※
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	伝統的な言語文化に 関する事項（古典）	七 12点	37.1※
	言葉の特徴やきまり に関する事項	四 8点	62.2
	漢字に関する 事項	読み	二 8点
書き		三 10点	56.3

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（3）結 果 の 説 明

全体の平均点は46.0点で、前年度と比べて8.2点低くなった。

領域（事項）・内容別の正答率は、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「言葉の特徴やきまりに関する事項」が62.2%と最も高く、次いで、話すこと・聞くことの「放送による聞き取り」が59.4%であった。一方、書くことの「作文」が23.9%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問四の(1)「語句の理解」、大問五の(1)(a)「文章の内容の理解」、大問二「漢字（読み）」の(1)「映える」であった。一方、正答率が低かったのは、大問八「資料をふまえての二段落構成の作文（200字以内）」、大問五の(4)I「文章の内容の理解と表現（7字以内）」及び大問六(5)I「登場人物の心情の理解と表現（25字以内）」であった。無答率が高かったのは、大問七の(5)II「文章の内容の理解と表現（15字以上、20字以内）」、大問五(4)II「文章の内容の理解（13字）」及び大問六(5)I「登場人物の心情の理解と表現（25字以内）」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
一	(1)	放送による 聞き取り 俳句についての発表	雨の呼び名を表すもの	○		76.5	0.1	
	(2)		会話から読み取れる俳句の情景	○		71.4	0.1	
	(3)		発言の工夫	○		76.2	0.3	
	(4)		説明する内容の表現(5字以内)		○	13.3	22.2	
二	(1)	漢字 (読み)	映(える)[は]		○	82.1	0.4	
	(2)		足袋[たび]		○	72.7	4.7	
	(3)		貸与[たいよ]		○	21.7	13.2	
	(4)		剥落[はくらく]		○	43.2	11.0	
三	(1)	漢字 (書き)	垂(れ)		○	65.7	19.9	
	(2)		耕(す)		○	79.1	7.6	
	(3)		収益		○	45.5	22.4	
	(4)		登録		○	65.0	9.7	
	(5)		針小棒大		○	26.2	41.2	
四	(1)	宿題についての 生徒同士の会話	語句の理解	○		90.3	0.2	
	(2)		文の構成(文の成分の照応)		○	64.1	5.2	
	(3)		漢文(返り点)		○	55.6	5.2	
	(4)		敬語(謙譲表現)		○	38.6	4.3	
五	(1)	説明的な文章 『対話をデザインする』	文章の内容の理解	○		86.4	0.5	
			文章の内容の理解(5字)		○	50.0	28.9	
	(b) I		文章の内容の理解(12字)		○	51.2	30.1	
	II		文章の内容の理解	○		58.8	1.1	
	(2)		文章の内容の理解	○		47.3	2.0	
	(3)		文章の内容の理解	○		6.0	36.6	
	(4) I		文章の内容の理解と表現(7字以内)		○	32.8	52.7	
II	文章の内容の理解(13字)		○	77.9	2.3			
(5)	文章の内容の理解	○						
六	(1)	文学的な文章 『六花落々』	登場人物の心情の理解	○		59.5	1.4	
	(2)		登場人物の心情の理解	○		59.1	2.3	
	(3)		登場人物の心情の理解	○		76.4	3.5	
	(4)		4点	登場人物の心情の理解と表現(13字以内)		○	13.8	
			1~3点				12.1	
	無答						37.2	
	(5) I		4点	登場人物の心情の理解と表現(25字以内)		○	11.5	
1~3点					8.1			
無答						49.9		
II	登場人物の人物像の理解	○		40.9	11.6			
七	(1)	古典 『筑波問答』	歴史的仮名遣い		○	68.2	7.7	
	(2)		文章の内容の理解(4字)		○	26.3	12.0	
	(3)		文章の内容の理解	○		45.1	7.9	
	(4)		文章の内容の理解	○		29.2	12.6	
	(5) I		2点	文章の内容の理解と表現(10字以内)		○	32.6	
			1点				3.1	
			無答					44.6
	II		2点	文章の内容の理解と表現 (15字以上、20字以内)		○	17.8	
			1点				3.7	
無答						55.3		
八	12点	条件作文 「方言を活用することの 効果」	資料をふまえての二段落構成の作文 (200字以内)		○	4.0		
	8~11点					11.9		
	4~7点		・前段部分は地元の人々に対する効果 ・後段部分は他の地域の人々に対する効果				17.7	
	1~3点						14.3	
	無答							11.7

2 社 会 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、地理的分野、歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようになるとともに、現代社会の諸問題に対する関心や理解の程度をみることができるようにした。
- ウ 統計や地形図、写真などの諸資料を活用して、社会的事象を判断・分析する力、そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 社会的事象を総合的に考察する力や筋道を立てて思考する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,629

分 野 ・ 内 容		問 題・配 点	正 答 率 (%)	
総 合	総 合 問 題	1 12点	71.2	
地 理 的 分 野	日 本 地 理	2 16点	71.9※	71.4※
	世 界 地 理	3 15点	70.9	
歴 史 的 分 野	前 近 代 史	4 16点	49.0※	45.9※
	近 ・ 現 代 史	5 15点	42.8	
公 民 的 分 野	国民生活と経済・社会	6 10点	65.0	62.3※
	日本の政治制度	7 10点	54.6※	
	国際社会	8 6点	69.8	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は60.7点で、前年度と比べて4.1点高くなった。

分野・内容別の正答率は、地理的分野の「日本地理」が71.9%と最も高く、歴史的分野の「近・現代史」が42.8%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問2の(4)②「リアス海岸」、大問2の(4)①「地形図の方位や距離等の読み取り」、大問3の(3)「インドの社会とヒンドゥー教」であった。逆に正答率が低かった問題は、大問4の(2)「承久の乱とその後の鎌倉幕府の動きについての記述」、大問5の(1)「民撰議院設立建白書と第一回帝国議会の間のことがら」、大問7の(3)「内閣総理大臣の指名についての記述」であった。

無答率が高かった問題は、大問4の(2)「承久の乱とその後の鎌倉幕府の動きについての記述」、大問7の(3)「内閣総理大臣の指名についての記述」、大問3の(2)「経済特区」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	地中海式農業	○			78.6	0.0	
	(2)	バリアフリー		○		76.2	3.8	
	(3)	千葉県に関係するできごと	○			45.8	0.4	
	(4)	前回の東京オリンピックとパラリンピック開催前と今回の東京オリンピックとパラリンピック開催前の日本の状況の比較に関する資料の読み取り	○			84.3	0.3	
2	(1)	島根県		○		57.3	4.1	
	(2)	中京工業地帯・阪神工業地帯・京葉工業地域の製造品出荷割合と出荷額	○			54.0	0.2	
	(3)	4点				44.1		
		1～3点	瀬戸大橋の開通にともなう変化についての記述			○	34.0	
		無答						4.7
	(4)	①	地形図の方位や距離等の読み取り	○			93.4	0.1
②		リアス海岸		○		93.7	2.7	
3	(1)	時差を用いた経度の計算		○		52.5	4.0	
	(2)	経済特区		○		67.1	17.6	
	(3)	インドの社会とヒन्दゥー教	○			89.3	0.1	
	(4)	雨温図の読み取り	○			74.7	0.1	
	(5)	アメリカ合衆国・オーストラリア・中国の貿易に関する資料の読み取り	○			71.0	0.2	
4	(1)	系図中の人物やその時代について述べた文の正誤の判定	○			35.5	0.1	
	(2)	4点				14.4		
		1～3点	承久の乱とその後の鎌倉幕府の動きについての記述			○	12.6	
		無答						24.7
	(3)	室町時代にさかんに読まれた絵入りの物語（お伽草子）	○			50.7	0.3	
	(4)	参勤交代が制度として定められたときの将軍	○			73.9	0.5	
(5)	江戸時代にイギリスで始まった変化（産業革命）		○		64.2	8.8		
5	(1)	民撰議院設立建白書と第一回帝国議会の間のことがら	○			17.7	0.2	
	(2)	第一回帝国議会と第一次護憲運動の間のことがら	○			51.3	0.1	
	(3)	孫文とレーニン	○			56.8	0.1	
	(4)	民族自決		○		44.6	9.9	
	(5)	1925年から1993年の間のことがら	○			43.8	0.1	
6	(1)	株主の権利		○		55.1	3.6	
	(2)	就労等に関する若者の意識調査の結果に関する資料の読み取り	○			76.6	0.2	
	(3)	労働者の権利	○			63.2	0.2	
7	(1)	日本国憲法における基本的人権	○			53.9	0.3	
	(2)	日本国憲法における天皇の地位		○		72.2	5.1	
	(3)	4点				32.7		
		1～3点	内閣総理大臣の指名についての記述			○	10.1	
無答						18.1		
8	(1)	国際 UNICEF（ユニセフ）		○		61.8	5.1	
	(2)	安全保障理事会の常任理事国と拒否権	○			77.7	0.4	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、数学の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 多面的にものを見ることや論理的に考えることの基となる、数学の理解力をみることができるようにした。
- ウ 事象を数理的に考察し処理するための判断力及び表現力をみることができるようにした。
- エ 数学的な見方や考え方を総合的に活用するための思考力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,629

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正 答 率 (%)	
数 と 式	数 と 式 の 計 算	1	30点	81.6	64.0※
	式 の 活 用	5	15点	37.5※	
図 形	平 面 図 形	2 の(5)、 4 の(2)	10点	4.3	41.7※
	空 間 図 形	2 の(3)	5点	61.7	
	図 形 の 証 明	4 の(1)	10点	60.0※	
関 数	関 数 $y = ax^2$	2 の(1)、 3	20点	45.2	
資料の活用	相 対 度 数	2 の(2)	5点	74.9	51.6
	確 率	2 の(4)	5点	28.3	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は51.4点で、前年度と比べて3.1点低くなった。

領域別の正答率は、数と式が64.0%と最も高く、図形が41.7%と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問**1**の(1)「正の数・負の数(加法)」の正答率が98.4%と最も高く、大問**5**の(3)「式の活用(二次方程式の利用)」の正答率が12.4%と最も低かった。

図形の領域では、大問**4**の(1)(a)「図形の証明(穴埋め)」の正答率が97.6%と最も高く、大問**4**の(2)「平面図形(図形の相似の利用)」の正答率が0.8%と最も低かった。

関数の領域では、大問**3**の(1)「関数 $y = ax^2$ (関数の決定)」の正答率が82.5%と最も高く、大問**3**の(2)②「点の座標(面積の比)」の正答率が3.9%と最も低かった。

資料の活用の領域では、大問**2**の(2)「資料の散らばりと代表値(相対度数)」の正答率が74.9%、大問**2**の(4)「確率」の正答率が28.3%であった。

無答率が高かったのは、大問**4**の(2)「平面図形(図形の相似の利用)」、大問**3**の(2)②「点の座標(面積の比)」及び大問**5**の(3)「式の活用(二次方程式の利用)」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選 択	短 答	記 述			
1	(1)	数と式	正の数・負の数(加法)		○	98.4	0.0	
	(2)		正の数・負の数(四則計算：累乗を含む)		○	82.2	0.7	
	(3)		文字式の計算(分配法則)		○	77.5	1.6	
	(4)		一次方程式		○	72.1	3.9	
	(5)		平方根(根号を含む式の計算)		○	89.6	2.9	
	(6)		因数分解		○	69.9	5.3	
2	(1)	関数	関数 $y = ax^2$ (x の変域)		○	57.7	0.7	
	(2)	資料	資料の散らばりと代表値(相対度数)		○	74.9	3.4	
	(3)	図形	空間図形(三角柱の体積)		○	61.7	4.5	
	(4)	資料	確率		○	28.3	8.8	
	(5)	図形	平面図形(作図)		○	7.7	32.1	
3	(1)	関数	関数 $y = ax^2$ (関数の決定)		○	82.5	3.1	
	(2)		①	2点を通る直線の式		○	36.7	17.9
			②	点の座標(面積の比)		○	3.9	57.5
4	(1)	図形	(a) 図形の証明(穴埋め)		○	97.6	0.4	
			(b) 図形の証明(穴埋め)		○	68.6	0.3	
	(c)		6点	図形の証明(三角形の相似)		○	11.0	
			3点				5.4	
			無答					46.2
(2)	平面図形(図形の相似の利用)		○	0.8	61.3			
5	(1)	数と式	式の活用		○	72.6	2.0	
	(2)		式の活用(素因数分解)		○	42.0	22.3	
	(3)		4点	式の活用(二次方程式の利用)		○	12.4	
			2点				10.6	
			無答					50.8
(4)	式の活用(確率)		○	17.5	38.3			

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、第1分野、第2分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能並びに科学的な見方や考え方を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 図や表を基に、科学的に判断する力や結果などを表現する力をみることができるようにした。
- エ 課題を多面的、総合的にとらえ、科学的に思考し、解決する力をみることができるようにした。

(2) 正答率の概況

抽出答案数=3,629

分 野 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正答率 (%)		
第 1 分 野	物 理	光の屈折	1(3) 3点	88.4	29.1※
		運動とエネルギー	5 12点	9.6※	
		電流とその利用	7 10点	33.8	
	化 学	無機物	1(1) 3点	50.2	53.5
		化学変化と原子・分子	3 12点	62.0	
		化学変化とイオン	9 10点	43.6	
第 2 分 野	生 物	メンデル	1(4) 3点	89.7	64.4
		植物の生活と種類	2 12点	56.7	
		動物の生活と生物の変遷	8 10点	65.8	
	地 学	天気図に使う記号	1(2) 3点	78.3	54.2
		地球と宇宙	4 12点	40.5	
		大地の成り立ちと変化	6 10点	61.9	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は48.8点で、前年度と比べて11.8点低くなった。

分野・内容別の正答率は、第2分野・生物の大問8「動物の生活と生物の変遷」が65.8%と最も高く、次いで第1分野・化学の大問3「化学変化と原子・分子」が62.0%であった。逆に、第1分野・物理の大問5「運動とエネルギー」が9.6%と最も低かった。なお、大問1は各分野の基礎的・基本的な知識を問う小問集合であり、正答率の平均が76.7%であった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問3の(3)方法「試験管から発生する気体のおいの嗅ぎ方」、大問6の(1)「震央の位置と震度分布の関係」及び大問8の(1)「セキツイ動物」であった。逆に、正答率が低かった問題は、大問5の(3)「物体Cにはたらく力の作図」、大問5の(4)「物体Cの質量の計算、物体Cにした仕事の計算」及び大問5の(1)「物体Bを支える力の大きさの計算」であった。

無答率が高かった問題は、5の(4)「物体Cの質量の計算、物体Cにした仕事の計算」、大問7の(4)「電熱線Cの抵抗の値の計算」及び大問9の(2)「塩酸の電気分解で、電極b側に集まった気体が少ない理由」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容	問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)
		選択	短答	記述		
1	(1) 無機物	○			50.2	0.1
	(2) 天気図に使う記号	○			78.3	0.0
	(3) 光の屈折		○		88.4	1.1
	(4) メンデル	○			89.7	0.1
2	(1) アブラナの花のつくり	○			79.3	0.1
	(2) 双眼実体顕微鏡の見え方		○		73.8	3.6
	(3) 微生物の大きさの計算	○			66.0	0.1
	(4) 対物レンズの倍率		○		7.7	4.7
3	(1) 鉄と硫黄の反応で生じた物質の名称と化学式		○		66.3	5.6
	(2) 発熱反応・吸熱反応	○			41.3	0.9
	(3) 方法 試験管から発生する気体のにおいの嗅ぎ方			○	95.7	1.4
	x 試験管から発生する気体のにおい	○			82.5	0.4
4	(4) 反応せずに残る物質、反応してできた硫化鉄の質量の計算		○		24.4	7.1
	(1) 2か月後の北斗七星の位置	○			47.0	0.4
	(2) 地球の公転と、その星座を見ることができなくなる位置		○		54.2	1.4
	(3) 1か月後および11か月後にリゲルが南中する時刻の計算	○			33.3	0.8
5	(4) リゲルが1年中地平線の下にある地域	○			27.6	3.3
	(1) 物体Bを支える力の大きさの計算		○		4.8	8.8
	(2) 物体A、Bの運動エネルギーの大きさの関係			○	27.1	13.6
	(3) 3点			○	1.4	
	1~2点			○	2.0	
無答					8.0	
(4) 物体Cの質量の計算、物体Cにした仕事の計算		○		4.1	28.5	
6	(1) 震央の位置と震度分布の関係	○			92.2	0.2
	(2) 地震波の発生と揺れ	○			59.3	0.3
	(3) ① 地震発生時刻の計算		○		64.7	10.5
	② 震源距離と初期微動継続時間の関係(グラフ)、震源距離の推定			○	31.2	8.4
7	(1) 電流計の端子へのつなぎ方	○			69.3	1.0
	(2) 電熱線Aで発生する熱量の計算		○		46.0	8.9
	(3) 消費する電力が最大と最小の電熱線	○			6.6	3.7
	(4) 電熱線Cの抵抗の値の計算		○		13.4	26.3
8	(1) セキツイ動物		○		86.3	2.4
	(2) 恒温動物である動物	○			69.7	1.5
	(3) 肺胞の数が多いためガス交換が効率よくできる理由			○	44.4	4.8
	(4) イモリとトカゲの特徴	○			62.6	2.0
9	(1) 塩素の化学式		○		30.2	10.2
	(2) 塩酸の電気分解で、電極b側に集まった気体が少ない理由			○	47.4	18.0
	(3) 電極a側に集まった気体を調べる操作と、同じ気体が発生する化学変化	○			47.3	4.1
	(4) 水の電気分解で発生する気体とその体積比	○			49.4	6.2

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

5 英 語 (前 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識及び技能を、全領域にわたり身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 「聞くこと」の領域では、音声を通しての理解力や応答力、大切な事柄を落とさず聞き取り、適切に判断して答える力などをみることができるようにした。また、「話すこと」の領域では、対話文等により、文脈を理解し適切に発話する力をみることができるようにした。
- ウ 「読むこと」の領域では、文や句の意味についての知識だけでなく、文章の概要や要点を把握する力、筆者の意図や考え、文脈などを把握する力、文章や図表等から読み取った情報を基に判断して思考する力をみることができるようにした。
- エ 「書くこと」の領域では、基本的な単語を書く力とともに、条件作文の中で、英語を用いて自分の考えなどをまとめ、表現する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=3,629

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点	正 答 率 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (対話を聞いて答える)	1 9点	85.1	68.8
	リスニングテスト (絵を見て答える)	2 6点	68.6	
	リスニングテスト (対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	3 6点	68.6	
	リスニングテスト (文章を聞いてその内容を表す文の空欄に英単語を答える)	4 12点	56.9	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	7 19点	51.0※	50.3※
	長い文章の読解	8 13点	36.0	
	対話文の流れの理解	9 12点	63.6	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	5 15点	48.9	45.5※
	英語による自己表現 (絵を見て状況を把握し、対話を完成する)	6 8点	28.8※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は54.6点で、前年度と比べて1.0点高くなった。

領域・内容別の正答率は、聞くこと(話すこと)の「リスニングテスト(対話を聞いて答える)」が85.1%と最も高かった。逆に、書くこと(話すこと)の「英語による自己表現(絵を見て状況を把握し、対話を完成する)」が28.8%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問1のNo.1「対話の最後の発話に対する応答を選ぶ」、大問2のNo.1「対話を聞いて絵を選ぶ」及び大問1のNo.2「対話の最後の発話に対する応答を選ぶ」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問8の(4)「内容と合うよう英語を補充する」、大問6「英語による自己表現(絵を見て状況を把握する)」及び大問8の(1)「内容と合うよう英語を補充する」であった。

無答率が高かったのは、大問8の(4)「内容と合うよう英語を補充する」、大問4のNo.2②「文章を聞き、その内容を表す文の空欄に taught のつづりを完成する」及び大問7の(2)①「英語の質問に英語で答える」であった。

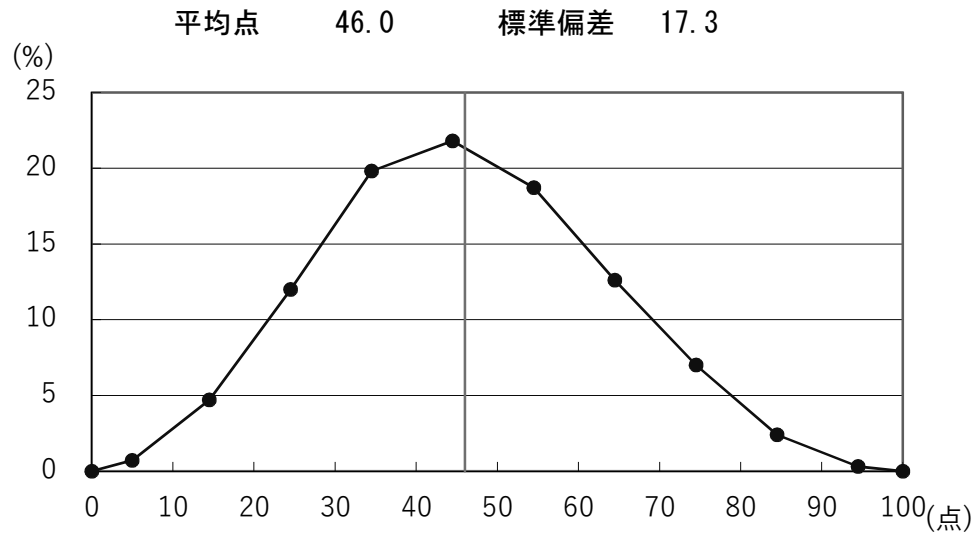
問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容			問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)			
				選択	短答	記述					
1	No. 1	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ			○			90.2	0		
	No. 2	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ			○			83.1	0		
	No. 3	対話の最後の発話に対する応答を選ぶ			○			82.1	0		
2	No. 1	リスニング	対話を聞いて絵を選ぶ			○			88.8	0.0	
	No. 2		文章を聞いて絵を選ぶ			○			48.3	0	
3	No. 1		対話を聞いて英語を選ぶ			○			67.0	0.2	
	No. 2		文章を聞いて英語を選ぶ			○			70.1	0.6	
4	No. 1		①	文章を読み、その内容を表す文の空欄に beautiful のつづりを完成する				○		64.2	9.1
			②	文章を読み、その内容を表す文の空欄に January のつづりを完成する				○		67.1	9.8
	No. 2		①	文章を読み、その内容を表す文の空欄に stories のつづりを完成する				○		65.7	11.0
		②	文章を読み、その内容を表す文の空欄に taught のつづりを完成する				○		30.6	19.5	
5	(1)	文法・文構造	動詞 sing を過去分詞形 sung にする				○		50.5	1.8	
	(2)		名詞 twelve を序数 twelfth にする				○		34.3	5.9	
	(3)		語順整序 (We don't have to wait for him.)			○			78.3	0.1	
	(4)		語順整序 (but it is more expensive than that one.)			○			51.5	0.4	
	(5)		語順整序 (Could you tell me where the museum is?)			○			29.9	0.1	
6	8点	自己表現	英語による自己表現(絵を見て状況を把握する) (解答例) I bought a white cup yesterday, but you sent me a black one. Can you send me a white cup?					○	5.4		
	5~7点							19.0			
	1~4点							29.2			
	無答								13.7		
7	(1)	短文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ			○			45.2	0.1	
			文脈に合わせて英語を選ぶ			○			62.3	0.3	
	(2)		①	英語の質問に英語で答える					○	11.6	
				内容と合う英語を選ぶ			○			22.4	
				内容と合う英語を選ぶ			○				15.4
	(3)		①	英語の質問に対する答えを選ぶ			○			79.4	0.3
②		内容と合う英語を選ぶ			○			32.8	0.6		
8	(1)	長文読解	内容と合うよう英語を補充する				○		10.3	11.5	
	(2)		英語の質問に対する答えを選ぶ			○			61.0	1.4	
	(3)		内容と合う英語を選ぶ			○			67.8	2.0	
	(4)		内容と合うよう英語を補充する				○		4.7	28.7	
9	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ			○			77.2	0.6	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ			○			58.4	1.0	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ			○			64.1	1.8	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ			○			54.7	2.5	

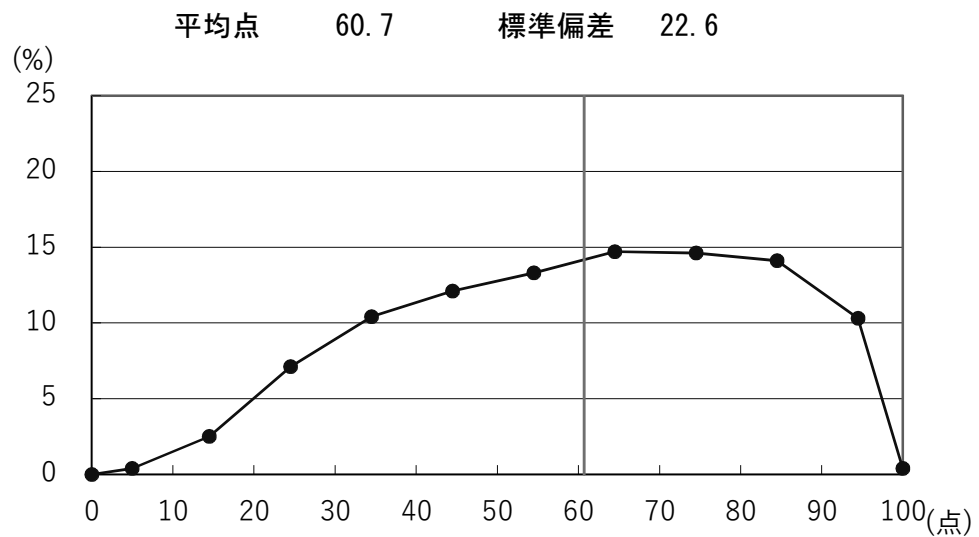
※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

Ⅲ 【前期選抜】受検者の得点分布

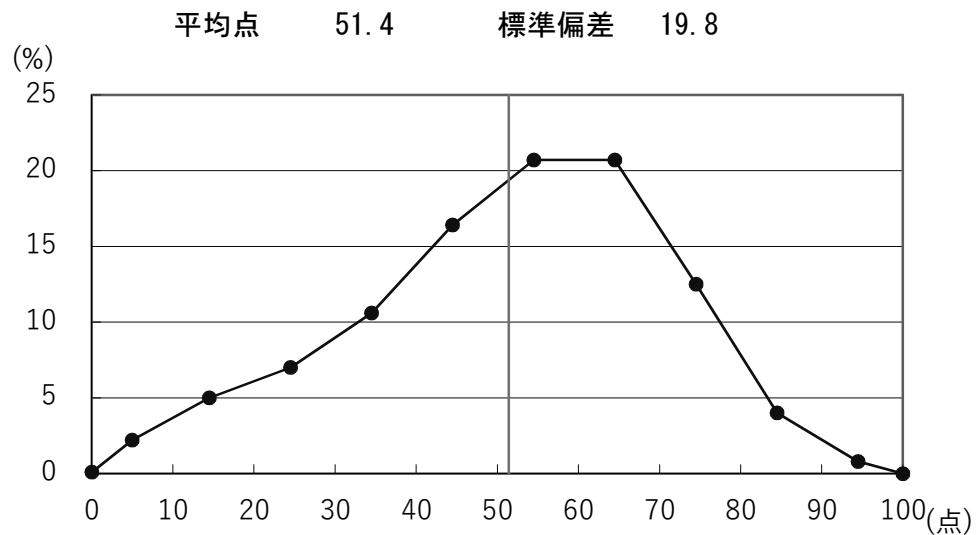
1 国語



2 社会

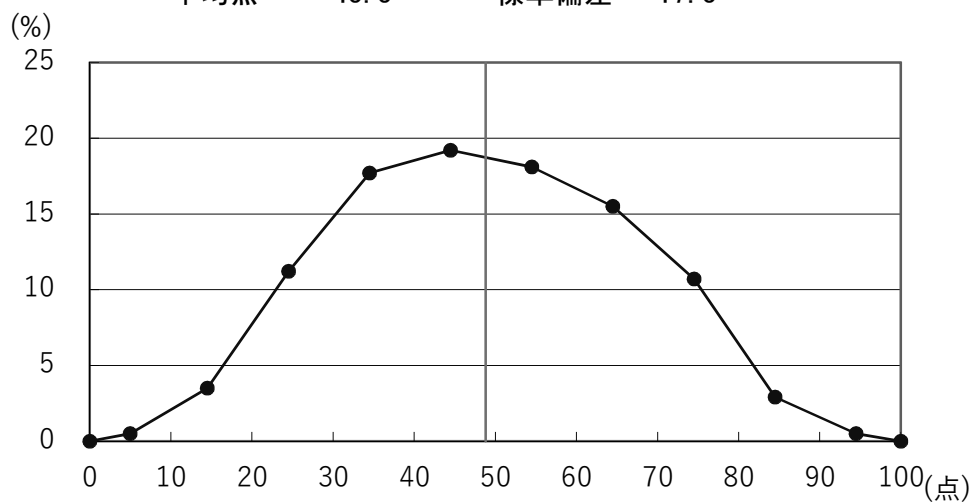


3 数学



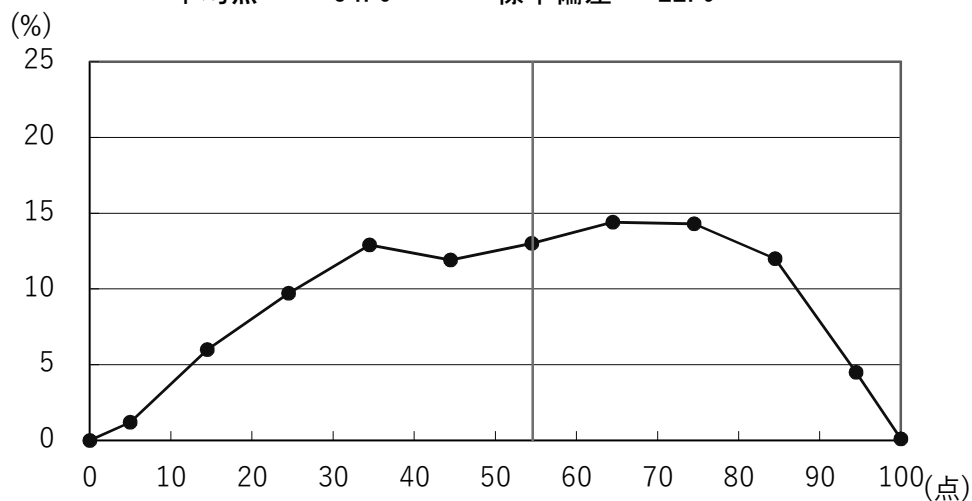
4 理科

平均点 48.8 標準偏差 17.8



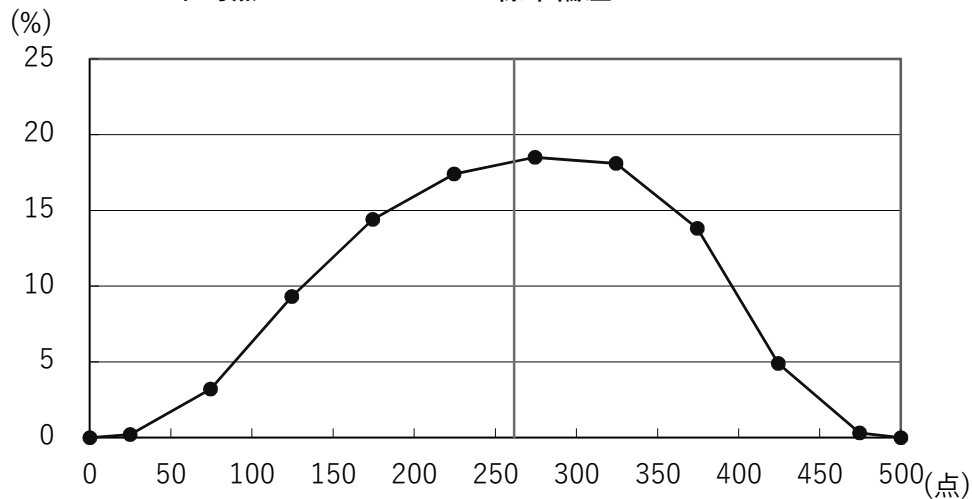
5 英語

平均点 54.6 標準偏差 22.9



6 5教科得点合計

平均点 261.6 標準偏差 90.6



Ⅳ 【後期選抜】教科別の結果

1 国 語（後 期）

（1）出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、3領域（「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」）の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の基礎的・基本的な力を身に付けているかをみることができるようにした。
- ウ 様々な文章について、内容を的確に理解し、書き手の伝えたいことなどを考察する力をみることができるようにした。
- エ 与えられた材料について、自分の言葉で考えを適切にまとめたり、相手に的確に伝えたりする力をみることができるようにした。

（2）正答率の概況

抽出答案数=1,512

領 域（事 項） ・ 内 容		問 題・配 点	正答率（%）
話すこと・聞くこと	放送による聞き取り	一 12点	68.8
書 く こ と	作文	七 10点	49.9※
読 む こ と	説明的な文章	五 (2) (3) (4) (5) 20点	41.9※
	文学的な文章	四 23点	60.2※
伝統的な言語文化と 国語の特質に関する 事項	伝統的な言語文化に 関する事項（古典）	六 14点	46.0
	言葉の特徴やきまり に関する事項	五 (1) 3点	62.3
	漢字に関する 事項	読み	二 8点
書き		三 10点	59.0

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

（3）結 果 の 説 明

全体の平均点は54.7点で、前年度と比べて4.5点低くなった。

領域（事項）・内容別の正答率は、話すこと・聞くことの「放送による聞き取り」が68.8%と最も高く、次いで伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項の「漢字に関する事項（読み）」が66.1%であった。一方、読むことの「説明的な文章」が41.9%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問四の(5)I「文章の内容の理解」、大問一の(3)「会話の理解」及び大問四の(1)「登場人物の心情の理解」であった。一方、正答率が低かったのは、大問五の(5)「文章の内容の理解と表現（15字以上、25字以内）」、大問七「条件をふまえて書く段落構成の作文（140字以内）」及び大問六の(3)I「和歌の内容の理解（7字）」であった。無答率が高かったのは、大問五の(5)「文章の内容の理解と表現（15字以上、25字以内）」、大問五の(4)I「文章の内容の理解（6字）」及び大問五の(4)III「文章の内容の理解（6字）」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)		
			選択	短答	記述				
一	(1)	放送による聞き取り 食品ロスの問題について考える話し合い	発言の意図	○		78.6	0.1		
	(2)		提示資料の理解	○		44.6	0.1		
	(3)		会話の理解	○		86.3	0.1		
	(4)		話し合いの流れを受けての展望	○		65.7	0		
二	(1)	漢字 (読み)	日和[ひより]		○	58.7	1.3		
	(2)		強(いる)[し]		○	80.8	2.0		
	(3)		戦慄[せんりつ]		○	63.6	5.8		
	(4)		緩急自在[かんきゅうじざい]		○	61.1	2.3		
三	(1)	漢字 (書き)	生(い)		○	57.2	23.5		
	(2)		肥(えた)		○	58.7	16.6		
	(3)		穀物		○	51.5	11.4		
	(4)		口座		○	55.9	14.7		
	(5)		角砂糖		○	71.6	5.2		
四	(1)	文学的な文章 『ままならないから私とあなた』	登場人物の心情の理解	○		81.3	0.4		
	(2)		登場人物の心情の理解	○		35.9	0.5		
	(3)		I	3点			39.3		
				1~2点			12.2		
				無答				15.5	
	II		3点				44.5		
				1~2点			10.1		
				無答				17.8	
	(4)			文章の内容の理解と表現(15字以内)		○			
	(5)			文章の内容の理解と表現(20字以内)		○			
(4)		表現の理解(5字)		○	56.1	13.0			
(5)	I	文章の内容の理解	○		90.4	0.9			
		文章の内容の理解	○		62.6	0.9			
五	(1)	説明的な文章 (言葉の特徴やさまじりに関する事項) 『翻訳って何だろう？あの名作を訳してみる』	品詞の識別	○		62.3	1.0		
	(2)		文章の内容の理解	○		57.7	0.5		
	(3)		文章の内容の理解	○		55.7	1.3		
	(4)		I	文章の内容の理解(6字)		○	26.8	38.7	
				II	文章の内容の理解	○		45.2	7.0
				III	文章の内容の理解(6字)		○	57.2	33.1
	(5)		5点				4.4		
				1~4点			8.9		
	無答					51.3			
六	(1)	古典 『奇談雑史』	歴史的仮名遣い		○	81.2	1.8		
	(2)		文章の内容の理解	○		57.1	2.6		
	(3)		I	和歌の内容の理解(7字)		○	23.7	18.0	
				II	和歌の内容の理解(8字)		○	28.4	27.1
				III	和歌の内容の理解	○		39.7	8.7
七	10点	条件作文 「ごみ箱をあまり設置しない方がよい」という意見に反対する立場での意見文	条件をふまえて書く一段落構成の作文(140字以内)			21.2			
	6~9点		・「ごみ箱をあまり設置しない方がよい」という立場に立った上で、経験をふまえながら(日本でも街の中に「ごみ箱を多く設置しよう」という意見)への反対意見を書く。			30.6			
	1~5点				○	19.1			
	無答						7.3		

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

2 社 会 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、地理的分野、歴史的分野及び公民的分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようになるとともに、現代社会の諸問題に対する関心や理解の程度をみることができるようにした。
- ウ 統計や地形図、写真などの諸資料を活用して、社会的事象を判断・分析する力、そしてそれを表現する力をみることができるようにした。
- エ 社会的事象を総合的に考察する力や筋道を立てて思考する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,512

分 野 ・ 内 容		問 題・配 点	正 答 率 (%)	
総 合	総 合 問 題	1 10点	67.5	
地 理 的 分 野	日 本 地 理	2 16点	73.0	64.4
	世 界 地 理	3 15点	55.8	
歴 史 的 分 野	前 近 代 史	4 19点	61.3※	59.6※
	近 ・ 現 代 史	5 16点	57.5	
公 民 的 分 野	国民生活と経済・社会	6 12点	62.8	59.1※
	日本 の 政 治 制 度	7 12点	55.3※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は62.1点で、前年度と比べて3.7点低くなった。

分野・内容別の正答率は、地理的分野の「日本地理」が73.0%と最も高く、公民的分野の「日本の政治制度」が55.3%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問**5**の(2)「杉原千畝とユダヤ人」、大問**6**の(3)「日本の国債残高と国債依存度の推移グラフの読み取り」、大問**2**の(2)「広島市」であった。逆に正答率が低かった問題は、大問**7**の(2)「違憲立法審査権についての記述」、大問**6**の(2)「景気変動(景気循環)」、大問**3**の(2)「ドバイ(アラブ首長国連邦)」であった。

無答率が高かった問題は、大問**7**の(2)「違憲立法審査権についての記述」、大問**6**の(2)「景気変動(景気循環)」、大問**3**の(2)「ドバイ(アラブ首長国連邦)」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	総合問題	田沼意次	○		80.5	0.1	
	(2)		公務員		○	62.4	8.5	
	(3)		国の伝統的工芸品の指定品目の多い京都府・新潟県・沖縄県の3府県と千葉県に関する5種類のデータの読み取り	○		59.7	0	
2	(1)	日本地理	北方領土と日本の領域の西端	○		48.5	0	
	(2)		広島市	○	○	84.9	0.7	
	(3)		りんごの収穫量上位4県の全国のりんごの収穫量に占める割合と青森県の伝統的工芸品	○		83.9	0.1	
	(4)		地形図の読み取り	○		74.7	0	
3	(1)	世界地理	ロシアの自然	○		53.7	0	
	(2)		ドバイ（アラブ首長国連邦）		○	24.7	11.2	
	(3)		ニュージーランド	○		67.7	0.3	
	(4)		世界の小麦及び米の生産量・輸出量・輸入量の上位5か国に関する資料の読み取り	○		77.0	0.1	
4	(1)	前近代史	菅原道真についての説明	○		70.1	0.1	
	(2)		資料が示している文学作品（「平家物語」）	○		69.7	0.1	
	(3)		4点	下剋上と戦国大名についての記述			38.1	
			1～3点			○	19.6	
			無答					9.5
	(4)		蔵屋敷と元禄文化	○		70.5	0	
(5)	17世紀の世界のことがら	○		48.3	0.1			
5	(1)	近・現代史	1900年から1924年までの日本の動き	○		40.2	0.1	
	(2)		杉原千畝とユダヤ人		○	89.3	2.1	
	(3)		1939年から1947年までに日本で起こったことがら	○		34.7	0.1	
	(4)		明治時代から現代までの日本の様子	○		65.7	0.1	
6	(1)	経済	所得税と消費税の比較	○		79.4	0.1	
	(2)		景気変動（景気循環）		○	21.9	12.4	
	(3)		日本の国債残高と国債依存度の推移グラフの読み取り	○		87.0	0.1	
7	(1)	政治	日本国憲法における国民の義務		○	66.1	2.7	
	(2)		4点	違憲立法審査権についての記述			20.0	
			1～3点			○	5.6	
			無答					22.3
(3)	NGO	○		77.1	0.4			

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

3 数 学 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、数学の基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けているかをみることができるようにした。
- イ 多面的にものを見ることや論理的に考えることの基となる、数学の理解力をみることができるようにした。
- ウ 事象を数理的に考察し処理するための判断力及び表現力をみることができるようにした。
- エ 数学的な見方や考え方を総合的に活用するための思考力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,512

領 域 ・ 内 容		問 題 ・ 配 点		正 答 率 (%)	
数 と 式	数 と 式 の 計 算	1	30点	89.2	88.2
	文 字 式 の 利 用	2 の(1)	6点	82.3	
図 形	平 面 図 形	2 の(3)(5)、 4 の(2)	17点	35.1※	52.7※
	図 形 の 証 明	4 の(1)	10点	70.3※	
関 数	関 数 $y = ax^2$	3	10点	48.0	38.2
	一 次 関 数 の 利 用	5	15点	32.3	
資料の活用	最 頻 値	2 の(2)	6点	56.4	45.6
	確 率	2 の(4)	6点	34.7	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は59.0点で、前年度と比べて2.0点低くなった。

領域別の正答率は、数と式が88.2%と最も高く、関数が38.2%と最も低かった。

また、次の表にあるように、数と式の領域では、大問**1**の(1)「正の数・負の数(乗法)」の正答率が98.9%と最も高く、大問**1**の(5)「平方根(根号を含む式の計算)」の正答率が78.2%と最も低かった。

図形の領域では、大問**4**の(1)(b)「図形の証明(穴埋め)」の正答率が93.9%と最も高く、大問**4**の(2)「平面図形(三平方の定理の利用)」の正答率が7.3%と最も低かった。

関数の領域では、大問**5**の(1)「グラフの利用(動点の到着時間)」の正答率が82.4%と最も高く、大問**5**の(4)②「一次関数の利用」の正答率が0.2%と最も低かった。

資料の活用の領域では、大問**2**の(2)「資料の散らばりと代表値(最頻値)」の正答率が56.4%、大問**2**の(4)「確率」の正答率が34.7%であった。

無答率が高かったのは、大問**5**の(4)②「一次関数の利用」、大問**4**の(2)「平面図形(三平方の定理の利用)」及び大問**5**の(4)①「一次関数(図形の面積)」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	数と式	正の数・負の数(乗法)		○	98.9	0	
	(2)		正の数・負の数(四則計算：累乗を含む)		○	92.1	0.8	
	(3)		文字式の計算(乗法・除法)		○	90.1	1.1	
	(4)		連立二元一次方程式		○	88.4	3.0	
	(5)		平方根(根号を含む式の計算)		○	78.2	2.6	
	(6)		二次方程式(二次方程式の解の公式)		○	87.2	3.2	
2	(1)	数と式	不等式の表す意味		○	82.3	0.1	
	(2)	資料	資料の散らばりと代表値(最頻値)		○	56.4	3.3	
	(3)	図形	平面図形(円周角の定理)		○	65.1	4.3	
	(4)	資料	確率		○	34.7	5.5	
	(5)	6点	図形	平面図形(作図)		○	30.4	/
3点		5.0						
無答		26.8						
3	(1)	関数	関数 $y = ax^2$ (関数の決定)		○	77.7	4.8	
	(2)		①	直線と x 軸の交点の座標		○	53.3	14.6
			②	y 軸を軸とする回転体の体積		○	12.9	40.9
4	(a)	図形	図形の証明(穴埋め)		○	91.1	0.5	
			図形の証明(穴埋め)		○	93.9	0.6	
	(1)		6点	図形の証明(角の二等分線)		○	23.3	/
			3点				5.3	
			無答				52.9	
(2)	平面図形(三平方の定理の利用)		○	7.3	62.6			
5	(1)	関数	グラフの利用(動点の到着時間)		○	82.4	6.3	
	(2)		グラフの利用(面積が最大となる時間)		○	28.1	20.9	
	(3)		グラフの利用(線分の長さ)		○	40.3	21.9	
	(4)		①	一次関数(図形の面積)		○	10.3	59.5
			②	一次関数の利用		○	0.2	69.2

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

4 理 科 (後 期)

(1) 出 題 方 針

- ア 学習指導要領に基づき、第1分野、第2分野からバランスよく出題し、学習の成果を総合的にみることができるようにした。
- イ 基礎的・基本的な知識及び技能並びに科学的な見方や考え方を身に付けているかを見ることができるようにした。
- ウ 図や表を基に、科学的に判断する力や結果などを表現する力をみることができるようにした。
- エ 課題を多面的、総合的にとらえ、科学的に思考し、解決する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,512

分 野 ・ 内 容			問 題 ・ 配 点	正 答 率 (%)	
第1分野	物 理	運動とエネルギー	4 13点	48.1	49.1
		身近な物理現象	8 12点	50.3	
	化 学	化学変化と原子・分子	2 12点	65.9	66.9
		身の回りの物質	6 13点	67.8	
第2分野	生 物	動物の生活と生物の変遷	3 13点	60.9	60.7
		生命の連続性	5 12点	60.6	
	地 学	大地の成り立ちと変化	1 12点	70.8	63.2※
		気象とその変化	7 13点	55.7※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は59.7点で、前年度と比べて1.9点低くなった。

分野・内容別の正答率は、第2分野・地学の大問1「大地の成り立ちと変化」が70.8%と最も高く、次いで第1分野・化学の大問6「身の回りの物質」が67.8%であった。逆に、第1分野・物理の大問4「運動とエネルギー」が48.1%と最も低かった。

また、次の表にあるように、小問で正答率が高かった問題は、大問1の(2)「アンモナイト」、大問5の(1)「外来種」及び大問3の(3)「水でうすめた液を水に変えて実験を行った理由」であった。逆に、正答率が低かった問題は、大問4の(3)「斜面上を運動する台車の平均の速さの計算」、大問7の(4)「梅雨前線が停滞する理由」及び大問8の(3)「スピーカーからC地点までと、D地点までの直線距離の差」であった。

無答率が高かったのは、大問5の(3)(a)「生物濃縮」、大問7の(4)「梅雨前線が停滞する理由」及び大問4の(3)「斜面上を運動する台車の平均の速さの計算」であった。

問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	(1)	堆積物が固められてできる岩石	○			71.1	0.1	
	(2)	アンモナイト	○			96.6	0	
	(3)	示準化石である貝の化石	○			54.8	0.3	
	(4)	示相化石から推定できるもの			○	60.6	5.3	
2	(1)	炭酸水素ナトリウムの分解における実験操作			○	71.0	2.6	
	(2)	水ができたことを調べる試薬とその変化	○			63.0	0.1	
	(3)	加熱後に残る白い物質の水溶液の性質	○			61.3	0.1	
	(4)	炭酸水素ナトリウムの分解の化学反応式		○		68.4	5.5	
3	(1)	ベネジクト液によって麦芽糖を検出する実験の操作			○	51.0	11.6	
	(2)	だ液によりデンプンが分解された試験管、麦芽糖ができた試験管	○			74.9	0.3	
	(3)	水でうすめただ液を水に変えて実験を行った理由	○			83.9	0.3	
	(4)	胃液中の消化酵素	胃液中の消化酵素が分解する物質	○			45.8	0.4
		すい液中の消化酵素	すい液中の消化酵素が分解する物質	○			48.7	0.7
4	(1)	平面上を運動する台車にはたらく力	○			40.1	0.3	
	(2)	平面上を運動する台車が動いた時間と距離の関係(グラフ)			○	52.9	13.5	
	(3)	斜面上を運動する台車の平均の速さの計算			○	22.8	18.6	
	(4)	x	傾斜角を大きくしたとき、斜面上の台車にはたらく重力の大きさ			○	55.9	3.7
		y	傾斜角を大きくしたとき、斜面上の台車にはたらく重力の、斜面方向の分力の大きさ			○	69.0	3.4
5	(1)	外来種	○			90.7	0.1	
	(2)	カンジキウサギとヤマネコの個体数と、その増減	○			83.0	0	
	(3)	(a)	生物濃縮			○	33.4	21.3
		(b)	L湖の大型の鳥が大型の魚を食べる数量	○			35.1	2.4
6	(1)	メスシリンダーの目もりの読み方	○			81.2	0.2	
	(2)	アルミニウム、鉄、銅の密度			○	51.9	0.6	
	(3)	プラスチックの液体中の浮き沈みと密度	○			65.2	0.5	
	(4)	金属およびプラスチックの性質	○			72.9	0.5	
7	(1)	砂と水のあたたまり方のちがいと、水そう内の空気の流れ	○			51.1	0.3	
	(2)	乾湿計による湿度の読み取り			○	69.6	9.3	
	(3)	季節風			○	71.7	2.4	
	(4)	4点	梅雨前線が停滞する理由				26.7	/
		1~3点				○	7.4	
無答							20.1	
8	(1)	音源			○	80.6	4.6	
	(2)	振動数が1/2倍の音叉を用いたときの音の波形	○			43.0	1.3	
	(3)	スピーカーからC地点までとD地点までの直線距離の差			○	27.6	16.7	
	(4)	スピーカーの位置の決定	○			49.8	4.6	

※ 無答率の「0.0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

5 英 語 (後 期)

(1) 出 題 方 針

ア 学習指導要領に基づき、英語の基礎的・基本的な知識及び技能を、全領域にわたり身に付けているかをみることができるようにした。

イ 「聞くこと」の領域では、音声を通しての理解力や応答力、大切な事柄を落とさず聞き取り、適切に判断して答える力などをみることができるようにした。また、「話すこと」の領域では、対話文等により、文脈を理解し適切に発話する力をみることができるようにした。

ウ 「読むこと」の領域では、文や句の意味についての知識だけでなく、文章の概要や要点を把握する力、筆者の意図や考え、文脈などを把握する力、文章や図表等から読み取った情報を基に判断して思考する力をみることができるようにした。

エ 「書くこと」の領域では、基本的な単語を書く力とともに、条件作文の中で、英語を用いて自分の考えなどをまとめ、表現する力をみることができるようにした。

(2) 正 答 率 の 概 況

抽出答案数=1,512

領 域 ・ 内 容		問題・配点	正答率 (%)	
聞くこと (話すこと)	リスニングテスト (絵を見て答える、対話やまとまりのある文章を聞いて答える)	1 20点	60.4	54.1
	リスニングテスト (対話を聞いて空所にあてはまる数字や語を答える)	2 8点	38.3	
読むこと (話すこと)	短い文章の読解	5 16点	43.9	53.5※
	長い文章の読解	6 20点	51.3※	
	対話文の流れの理解	7 16点	65.8	
書くこと (話すこと)	文法及び文構造	3 12点	40.1	39.4※
	英語による自己表現 (ある意見に対する賛否とその理由を記述する)	4 8点	37.5※	

※の数値は、部分点がある設問について得点率を正答率として計算してある。

(3) 結 果 の 説 明

全体の平均点は51.5点で、前年度と比べて10.4点低くなった。

領域・内容別の正答率は、読むこと (話すこと) の「対話文の流れの理解」が65.8%と最も高かった。逆に、書くこと (話すこと) の「英語による自己表現 (ある意見に対する賛否とその理由を記述する)」が37.5%と最も低かった。

また、次の表にあるように、正答率が高かったのは、大問6の(1)「内容と合う絵を選ぶ」、大問7の(2)「文脈に合わせて英語を選ぶ」及び大問1のNo.1「対話を聞いて絵を選ぶ」であった。逆に、正答率が低かったのは、大問2の②「対話を聞いて空所にあてはまる語を答える (Vaughan)」、大問4「英語による自己表現 (ある意見に対する賛否とその理由を記述する)」及び大問6の(4)「内容と合うよう英語を補充する」であった。

無答率が高かったのは、大問6の(4)「内容と合うよう英語を補充する」、大問6の(3)「英語の質問に英語で答える」及び大問5の(2)①「英語の質問に英語で答える」であった。

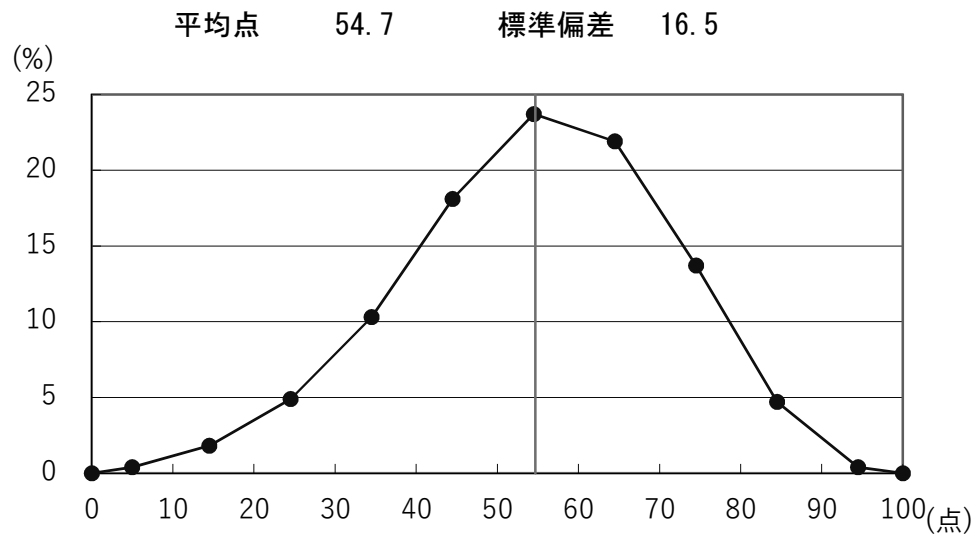
問題の内容及び正答率・無答率

問	問題の内容		問題形式			正答率 (%)	無答率 (%)	
			選択	短答	記述			
1	No. 1	リスニング	対話を聞いて絵を選ぶ	○		82.7	0	
	No. 2		対話を聞いて絵を選ぶ	○		63.2	0	
	No. 3		文章を聞いて英語を選ぶ	○		64.7	0.1	
	No. 4		対話を聞いて英語を選ぶ	○		50.3	0.1	
	No. 5		文章を聞いて英語を選ぶ	○		41.1	0.1	
2	①		対話を聞いて空所にあてはまる数字を答える (049638)		○	70.8	3.0	
	②		対話を聞いて空所にあてはまる語を答える (Vaughan)		○	5.8	4.5	
3	(1)	文法・文構造	語順整序 (I have never been there before.)	○		61.6	0.4	
	(2)		語順整序 (The tall man standing next to Laura is Bob.)	○		32.5	0.6	
	(3)		語順整序 (These are the letters Mom sent to me when I was thirteen years old.)	○		26.1	0.8	
4	8点	自己表現	英語による自己表現 (ある意見に対する賛否とその理由を記述する) (解答例) A (I think so, too.) B (They can talk with their friends. It's difficult to talk when they ride their bikes.)			11.4		
	5~7点				○	23.5		
	1~4点					27.0		
	無答						10.5	
5	(1)	短文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ		○	51.4	0.1	
			文脈に合わせて英語を選ぶ	○		57.0	0.2	
	①		4点			20.7		
			1~3点	英語の質問に英語で答える		○	6.7	
			無答				20.4	
②	内容と合う英文を選ぶ	○		43.1	0.5			
6	(1)	長文読解	内容と合う絵を選ぶ	○		86.7	0.3	
	(2)		内容と合う英語を選び表を完成する	○		63.6	1.5	
	(3)		4点			39.0		
			1~3点	英語の質問に英語で答える		○	22.1	
			無答				23.3	
	(4)		内容と合うよう英語を補充する	○		19.2	23.5	
(5)	内容と合う英文を選ぶ		○	36.9	5.2			
7	(1)	対話文読解	文脈に合わせて英語を選ぶ	○		77.9	1.0	
	(2)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		85.9	1.2	
	(3)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		42.5	1.8	
	(4)		文脈に合わせて英語を選ぶ	○		56.7	2.1	

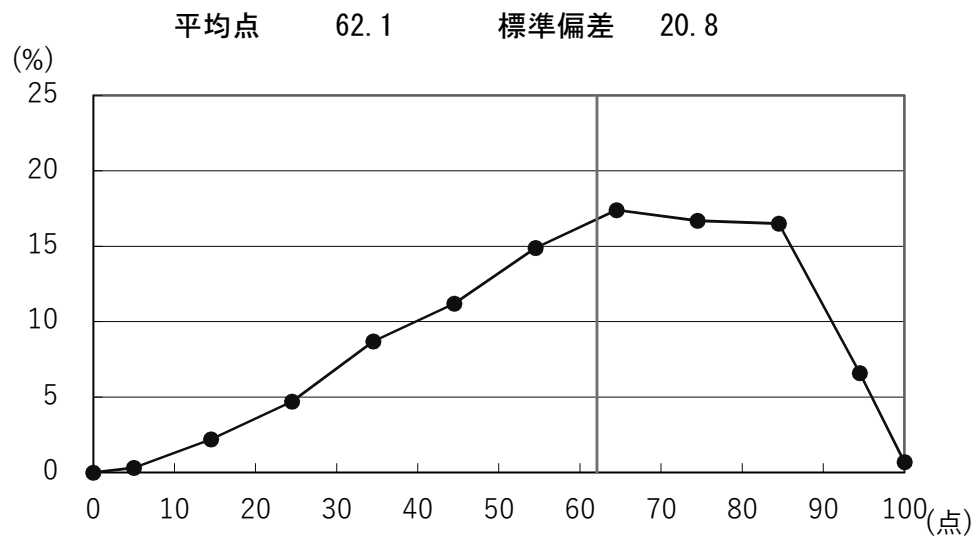
※ 無答率の「0. 0%」はごくわずかではあるが無解答の者がいた場合であり、「0%」は該当者がいない場合である。

V 【後期選抜】受検者の得点分布

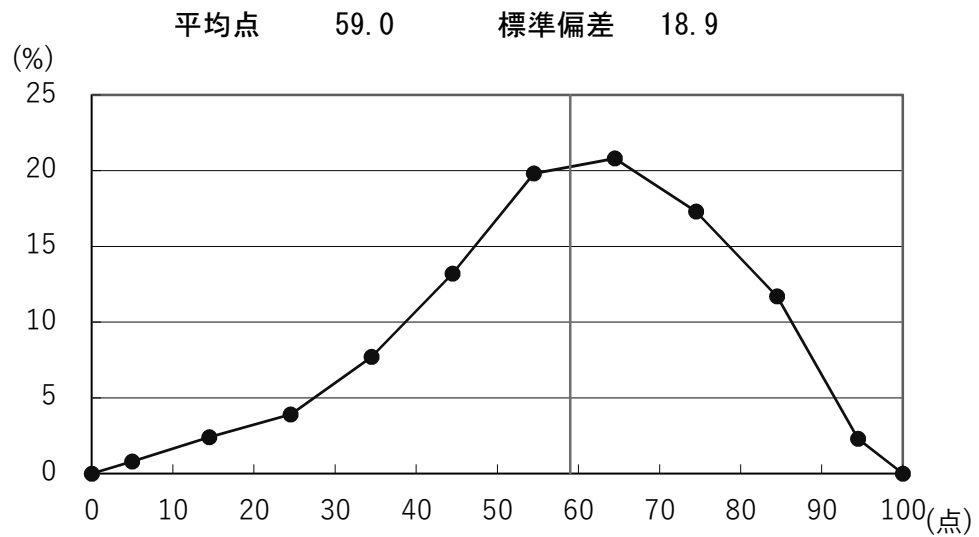
1 国語



2 社会

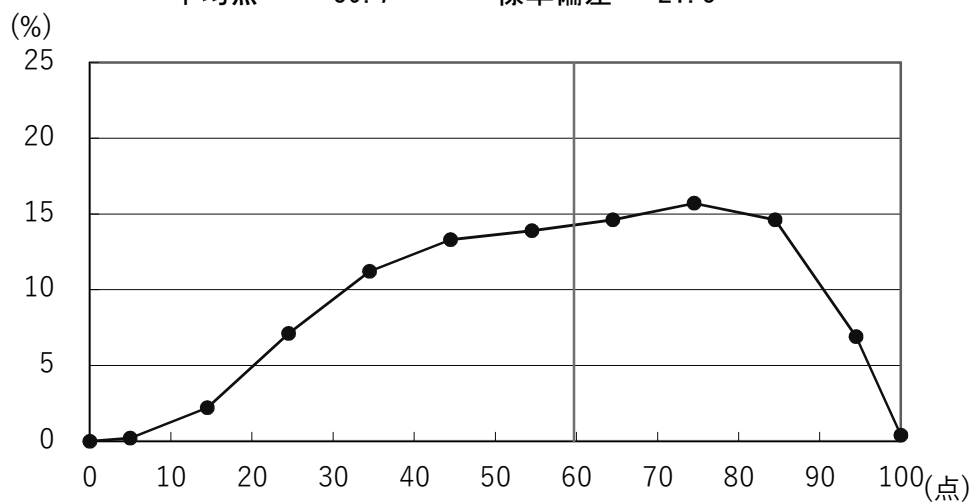


3 数学



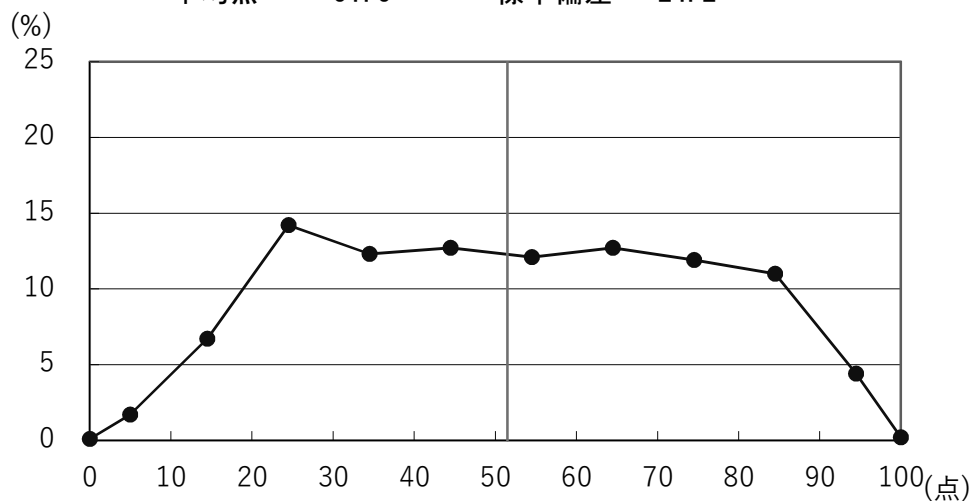
4 理科

平均点 59.7 標準偏差 21.5



5 英語

平均点 51.5 標準偏差 24.2



6 5教科得点合計

平均点 287.2 標準偏差 92.6

